

症例報告

研修歯科医の意識改革について —ワークショップを通して—

築根直哉¹⁾ 高橋なつみ¹⁾ 竹内義真^{2,3)}
深澤麻衣¹⁾ 古地美佳^{2,3)} 関啓介^{2,3)}
河越邦子^{2,3)} 紙本篤^{2,3)}

抄録：日本大学歯学部附属歯科病院で行われている歯科医師臨床研修のうち、単独型研修を行う研修歯科医を対象に、現在の自身の研修姿勢についてアンケート調査を行った。この結果、研修への積極性、患者への責任ある対応および歯科医師としての自覚を含めたモチベーションの維持が大切であるとの意見が多かった。そこで、歯科医師臨床研修への姿勢についての自己検討を目的とし、ワークショップを行った。ワークショップは、KJ法にて問題点を抽出し、全体発表と質疑応答を行い、残りの研修に向けて反映できる具体的な対応策を検討し、研修歯科医間で情報を共有した。その結果、後期の研修を行っていくうえで、研修歯科医の意識改革へ良い効果を示した。

キーワード：ワークショップ 歯科医師臨床研修 研修歯科医 意識改革

緒言

歯科医師臨床研修は、研修歯科医が、歯科医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学及び歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない¹⁾。歯科医師臨床研修の方式は「臨床研修施設単独方式」と「臨床研修施設群方式」に分類される。本学施設の単独方式は、群方式と比較すると、本学出身の研修歯科医が多いことや顔見知りの指導歯科医が多いことから人間関係のストレスが少なく、学生時代からの環境の慣れ等の理由から研修歯科医の精神的な安定が得られやすいと考えられる。一方で、その結果、研修歯科医の研修に対する姿勢がマンネリ化しやすいことが問題点として挙げられる。そこで、研修歯科医が自ら研修へ向けての姿勢を考え、残りの研修をより良くするために、単独型研修を行っている全35名の研修歯科医を対象にワークショップを行った。今回のワークショップが各研修歯科医へどのような影響を与えたかを、ワークショップ前後に同項目を挙げたアンケート（以下、プレアンケート、ポストアンケート）とワークショップ終了後に行った自己評価感想等を含むアンケート（以下、アンケート）を用いて調査し集計・分

析を行った（図1～3）。

対象および方法

2013年4月から2014年3月までの期間に日本大学歯学部附属歯科病院において、単独型で研修を行っている研修歯科医35名を対象とし、研修の中盤である9月にワークショップを開催した。ワークショップを行う前に、「臨床研修へ向けての研修歯科医の態度に必要なこと」（以下、「研修態度」と略す）、「歯科医師としての知識、技術の向上に必要なこと」（以下、「知識、技術の向上」と略す）、「集団研修を円滑に行っていくために必要なこと」（以下、「集団研修」と略す）の項目についてのプレアンケートを行い、次に、「単独型研修の問題点」をテーマにワークショップを行った。グループ編成は、研修歯科医35名を3つの立場の「研修歯科医」・「患者」・「指導歯科医」に分類し、各2グループずつに分け、計6グループを編成し、KJ法にて問題点を抽出した。抽出された問題点について全体発表と質疑応答を行い情報共有した後、その内容を踏まえて問題点を修正後、残りの研修に向けて反映できる具体的な対応策を検討し、再度全体発表と質疑応答にて全研修歯科医間で情報を共有した（写真1）。その後、ポストアンケートと「自らの態度の自己評価」、「ワークショップの感想」および「残りの研修への姿勢」の3つの項目からなるアンケートを行っ

¹⁾ 日本大学歯学部附属歯科病院

²⁾ 日本大学歯学部総合歯科学分野

³⁾ 日本大学歯学部総合歯学研究所歯学教育研究部門

¹⁾ Nihon University School of Dentistry Dental Hospital, 1-8-13 Kanda-surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo 101-8310, Japan.

²⁾ Department of Comprehensive Dentistry and Clinical Education, Nihon University School of Dentistry

³⁾ Division of Dental Education, Dental Research Center, Nihon University School of Dentistry

プレアンケート

初期研修の1ヶ月間を終え、プログラム2の単独型研修が始まり折り返し地点になりました。多くの研修歯科医が研修に慣れてきたと思います。さて、現在までの研修を見直し、残りの期間に向けて、より良い研修を行っていくために各研修歯科医で話し合い(ワークショップ)を行いたいと思います。その前に、各研修歯科医にアンケートを実施したいと思っております。

以下のアンケートについて自分の考えをお答えください。ただし、自由記載ですが、必ず記載して下さい。

① 臨床研修へ向けての研修歯科医の態度について

② 集団研修を円滑に行っていくために必要なことについて

③ 歯科医師としての知識、技術の向上するために必要なことについて

④ 上記以外に思うことがあれば記載して下さい。

図 1 プレアンケート

アンケート

① 自分の考えや意見が言えましたか。

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7

② メンバーの意見や考えを聴くことができましたか。

1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7

③ 今回のワークショップにおいて自分自身の参加の仕方についてはどうでしたか。

④ 今回のワークショップにおいてあなたの班では円滑に話し合えましたか。

⑤ このワークショップの感想を教えてください。

⑥ 残りの研修で自分はどのようにしようと思えますか。

⑦ その他、何かあれば記載して下さい。

図 3 アンケート

ポストアンケート

以下のアンケートについて自分の考えをお答えください。ただし、自由記載ですが、必ず記載して下さい。

① 臨床研修へ向けての研修歯科医の態度について

② 集団研修を円滑に行っていくために必要なことについて

③ 歯科医師としての知識、技術の向上するために必要なことについて

④ 上記以外に思うことがあれば記載して下さい。

図 2 ポストアンケート

た。「自らの態度の自己評価」の評価基準は「自分の考えや意見が言えた」、「メンバーの意見や考えを聴くことができた」という項目に対し、1：全くできなかった、2：できなかった、3：あまりできなかった、4：どちらともいえない、5：できた、6：まあまあできた、7：よくできたとした。なお、自己評価を除くアンケートは全て自由記載とし、記載内容からキーワードとなるコメントの種類と数を集計し分析を行った。

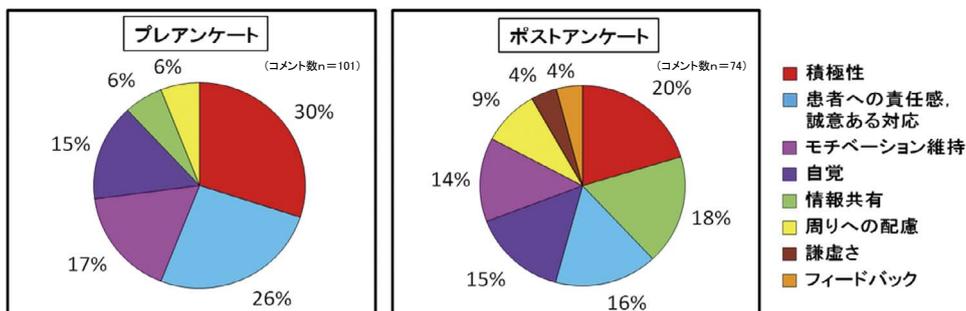
結 果

「研修態度」、「知識、技術の向上」、および「集団研修」のプレアンケートとポストアンケートを比較したそれぞれの結果は、ポストアンケートに「謙虚さ」と「フィードバック」、「自覚」「フィードバック」および「柔軟性のあるルール」と「環境づくり」の回答が追加された。さらに、「研修態度」におけるポストアンケートでは、「情報共有」を含めた主となるコメントの割合がおおよそ均等になった。「集団研修」では、プレアンケートにおける「情報共有」と「相手への尊敬、協力」のコメント数が約65%占めているものが、ポストアンケートで50%になり、「自覚」と「コミュニケーション」の割合がそれに伴い増加し、全体のコメント割合の偏りが減少した。「知識、技術の向上」のポストアンケートでは、プレアンケートと比較して

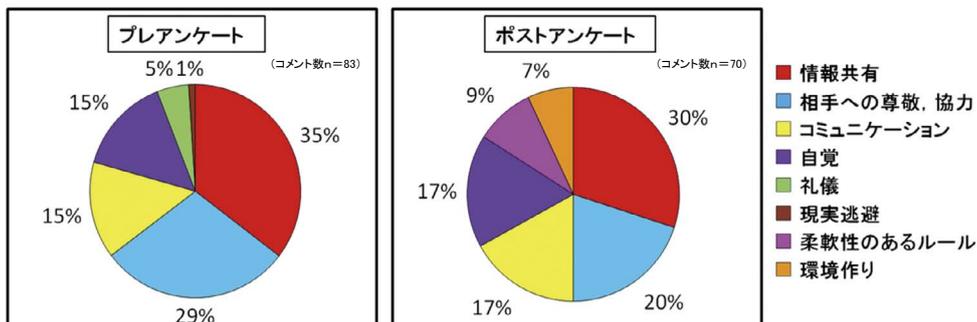


写真 1 全体発表と質疑応答風景

臨床研修へ向けての研修歯科医の態度に必要なこと



集団研修を円滑に行っていくために必要なこと



歯科医師としての知識・技術の向上に必要なこと

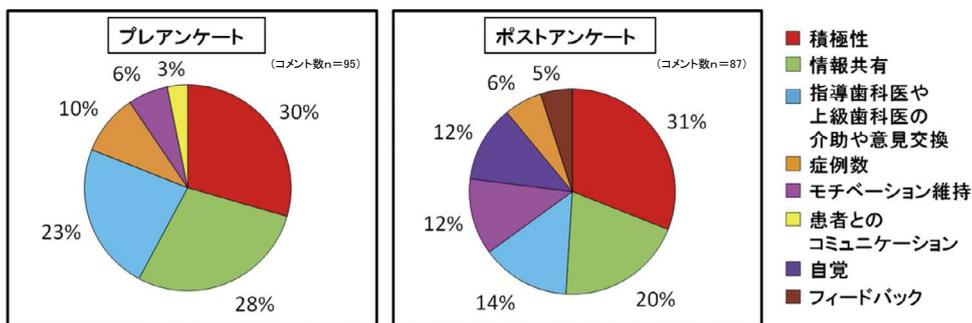


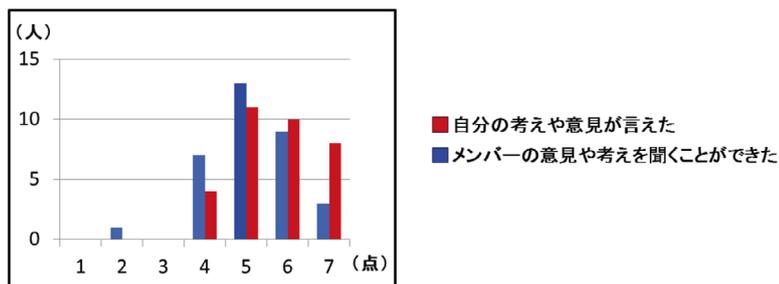
図 4 プレアンケートとポストアンケートの結果

「積極性」の割合には変化が認められず、「情報共有」・「意見交換」・「症例数」が減少し、「モチベーションの維持」と「自覚」の割合が増加した(図4)。

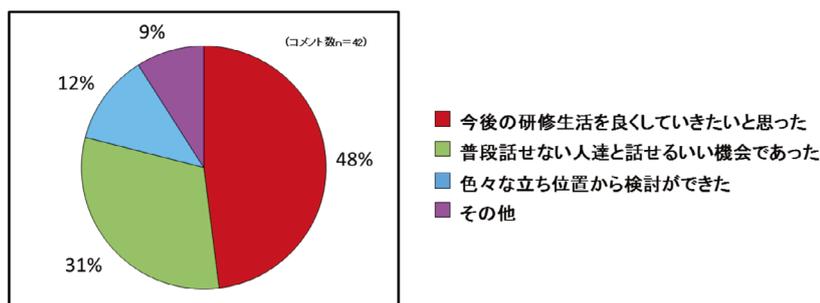
各研修歯科医のワークショップへの参加に対する自

己評価を集計すると、今回のワークショップにおいて『自分の意見や考えが言えたか』『メンバーの意見や考えを聞くことができたか』という質問に対して、4点以上の評価をした研修歯科医が多かった。また、ワー

自己評価



ワークショップの感想コメント



残りの研修で自分は何をどうしようと思いますか

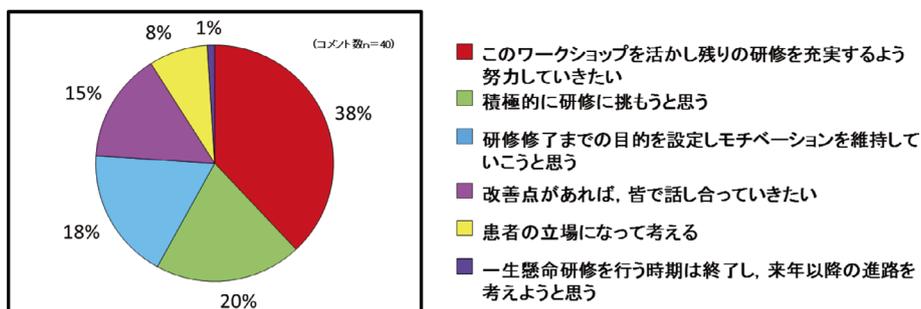


図 5 アンケートの結果

ワークショップの感想コメントでは、「今後の研修生活を良くしていきたい」と「普段話せない人達と話せるいい機会だった」が多く占めていた。さらに、「残りの研修で自分は何をどうしようと思うか」というアンケート結果については、「自らの努力」・「積極性」・「モチベーションの維持」・「意見交換」が大部分を占めた (図 5)。

考 察

ポストアンケートのコメントの割合がプレアンケートと比べると偏りが減少したのは、ワークショップを行い研修歯科医間で意見交換することによって共通の認識を持つことが出来たからであると考えられる。また「知識、技術の向上」において「情報共有」と「意見交換」の割合が減少している。これは、意見交換

を行うことよりも、重要であることは自ら学ばなければならないとの認識への変化とともに相対的に他のコメントの重要度が上昇したのではないかと推測された。さらに、ワークショップを行い研修歯科医間で意見交換したことにより、「集団研修」におけるポストアンケートでは「柔軟性のあるルール」と「環境づくり」のコメントが追加された。これは、ワークショップにて、自分たちで話し合いルールを見直し、また、このような話し合いができる環境を設けたことによりその大切さを実感したからではないかと考察する。

自己評価のアンケート結果では、4点以上の評価をした研修歯科医が多いことから今回のワークショップに多くの研修歯科医が積極的に参加でき、なおかつ話し合いの環境が整えられていたと考えられる。ワークショップの感想コメントについては、コメント全体の

約5割が「今後の研修生活を良くしていきたい」であり、ワークショップが各研修歯科医のモチベーションの維持に繋がり意識改革のきっかけとなったことを示している。また、「普段話せない人達と話することができるいい機会だった」というコメントが約3割であり、意見交換を含めたコミュニケーションの大切さを認識したと考える。そして、「色々な立ち位置から検討ができた」のコメントは約1割であり、研修に対する研修歯科医の視野が広がったことを示している。「残りの研修で自分は何をどうしようと思うか」というアンケート結果については、全体の9割のキーワードが「自らの努力」・「積極性」・「モチベーションの維持」・「意見交換の大切さ」であり、残りの歯科医師臨床研修をより良くしようと研修歯科医の意識改革がされたことを示していると考えられ、また、残りの1割は「患者の立場になって考える」というコメントであり、一歯科医師としての自覚の大切さを感じたことを示している。

結 論

研修歯科医間のワークショップは、普段話すことができない研修歯科医と意見交換をすることができ、各研修

歯科医の歯科医師臨床研修への意識の相違に気づき、研修歯科医自ら研修への考えや姿勢に対してフィードバックする有用な方法であると考えられた。また、残りの歯科医師臨床研修を行うことに向けて、各研修歯科医に「一歯科医師としての自覚」が芽生え、新しい決意を抱くきっかけとなり、それに加え、研修へのモチベーションの維持に繋がり、意識改革を行う有効な方法の一つと示された。

本論文において、すべての著者は開示すべき利益相反事項はない。

文 献

- 1) 厚生労働省. 歯科医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令.
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/shikarinsyo/gaiyou/kanren/sekou/honbun.html>
 (最終アクセス日 2015. 3. 14)

著者への連絡先

築根 直哉
 〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13
 日本大学歯学部付属歯科病院 総合診療科
 TEL 03-3219-8195 FAX 03-3219-8345
 E-mail: takeuchi.yoshimasa@nihon-u.ac.jp

Changes in trainee dentists' attitudes after a workshop

Naoya Tsukune¹⁾, Natsumi Takahashi¹⁾, Yoshimasa Takeuchi^{2,3)}, Mai Fukasawa¹⁾,
 Mika Furuchi^{2,3)}, Keisuke Seki^{2,3)}, Kuniko Kawagoe^{2,3)} and Atsushi Kamimoto^{2,3)}

¹⁾Nihon University School of Dentistry Dental Hospital

²⁾Department of Comprehensive Dentistry and Clinical Education, Nihon University School of Dentistry

³⁾Division of Dental Education, Dental Research Center, Nihon University School of Dentistry

Abstract : We conducted a survey of dental trainees attitudes, group training, and improvements in knowledge and skills in dental trainees at NUSD hospital on 1 year postgraduate clinical training program. Many of them reported that three things are important for postgraduate clinical training: enthusiasm, responsibility, and motivation. Dental trainees who participated in a workshop discussed problems concerning the postgraduate clinical training program. We divided 35 dental trainees into 3 groups, and each group had a role such as dental trainees, patient, and instructor. We selected problems from the first half of the postgraduate clinical training using KJ method. Then we shared our thoughts by giving presentations and having a question and answer session, which helped us to consider concrete measures to put in use during the second part of the program. Finally, the workshop helped dental trainees to think about the postgraduate clinical training program.

Key words : workshop, the postgraduate clinical training program, trainee dentist, improvement